2022年2月23日（水）第三水曜祈祷会
テモテの手紙第二1章1～18節
「受け、守り、伝えるもの」

■テモテの手紙第二の梗概　＊パウロが書いたものとしては、最後の手紙（絶筆）
①パウロがこの手紙を書いたのは、ローマの牢獄に捕らわれの身となり、死を目前としている時。
②この手紙はエペソの教会で厳しい牧会を続けているテモテを励ますために書かれている。
③異端に対する対処法と教会を揺るがす嵐への備え、終わりの日についての警告が告げられる。
④結び（4章）…殉教の死を前にして、パウロが愛弟子テモテに残すことばと生き様。

■「受け、守り、伝えるもの」
1. 手紙のあいさつ・感謝（1：1～5）　＊
①「神のみこころにより」…パウロは神のみこころによって使徒となったと自己紹介をする。
②「愛するテモテへ」…受取人のテモテはパウロにとって最愛の弟子の一人であった。
③「感謝しています」…パウロは絶えずテモテのことを思い出して、とりなし祈り、感謝していた。
④「確信しています」…テモテの信仰は敬虔な祖母ロイスと母ユニケを通して伝えられた。

2. テモテへの励まし（1：6～14）
①「思い起こしてほしい」…神は臆病の霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えてくださった。
②「神は私たちを救い」…神は恵みによって私たちを救い、聖なる招きをもって召してくださった。
③「この福音のために」…パウロは捕らわれの身となっても、証人であることを恥と思っていない。
④「守りなさい」…パウロから聞いた健全なことば、委ねられた良いものを聖霊によって守りなさい。

3. 痛みと慰め（1：15～18）
①「私から離れていきました」…アジア（エペソ）のキリスト者たちは囚人パウロを見捨ててしまった。
②「オネシポロの家族」…パウロを熱心に捜して見つけ出し、たびたび元気づけてくれた友がいた。
③「かの日（主の再臨）には」…審判の日には主がオネシポロを憐れんでくださるように祈っている。
④「あなた自身が一番」…オネシポロの忠実な奉仕はパウロよりテモテの方がよく知っているはず。

◎まとめ：
①あなたはどうやってイエスさまを信じる信仰に導かれましたか。
②あなたは神の賜物としてどんなものが与えられていますか。
③あなたにはパウロのように励ましてくれる信仰の友がいますか。

「神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れたりなさいません。あなたがたはこれまで聖徒たちに仕え、今も仕えることによって、神の御名のために愛を示しました。」
（ヘブル人への手紙6：10）